平成１９年度第１回市民参画・協働推進アドバイザー会議議事録

日　　時	平成１９年8月２７日（月）　１５：００　～　１７：００
場　　所	北館 2 階第 3 会議室
出　席　者	委　員　今川　晃　・　外園　一人　・　弘本　由香里 海士　美雪　・　国枝　哲男 事務局　高嶋　修　市民生活部長　・　大橋　義裕　市民参画課課長 田中　徹　市民参画課課長補佐　・　福島　貴美　市民参画課主査
会議の広表	■　公　開　　□　非　公　開　　□　部分公開 ＜非公開・部分公開とした場合の理由＞
傍　聴　者	０　人

（今川座長）
それでは第１回芦屋市市民参画・協働推進アドバイザー会議を開催させていただきます。
まずは高嶋部長、お願いします。

（高嶋部長）
大変暑い中、またお忙しい中をお集りいただきまして、ありがとうございます。
この４月から市民参画及び協働の推進に関する条例が施行されまして、今日ご出席の皆様にはいろんな場面で市民参画に関わっていただいておりますので、改めてこの場の設定が要るのかなと思っているところです。いろいろなところでの関わっていただき方が、いろいろ場面でも違うと思いますので、こうして一同集まっていただきまして、市民参画協働についての各専門からの違う視点でのご意見を拝聴させていただきたく思います。よろしくお願いいたします。簡単ですが挨拶はこれくらいにさせていただきます。

（今川座長）
それでは、２番目の経過報告並びに資料説明をお願いします。

（福島）
事務局から資料説明をいたします。みなさんにお配りしました資料ですが、芦屋市の市民参画協働推進会議の第１回会議、第２回会議、第３回の資料をつけています。
第１回会議のポイントを申し上げます。平成１８年１２月から平成１９年１月にかけて市民参画課で、全国の市民参画協働の推進計画について調査をいたしました資料を第１回会議では、委員のみなさんに読んでいただいた上で、推進計画について芦屋らしいものを作るためにご意見をいただこうとしております。各計画のレベルですけれど、指針のレベルのところもあれば基本計画レベルのところもあれば、実施計画レベルのところもありまして、各市様々であるということがわかりました。指針、条例ができてから推進計画のところもありますが、推進計画ができてから指針や条例を作ったりいうところもいろいろありました。
芦屋市は指針、条例、推進計画の順番ですので、今、市民活動センターがオープンしている状況の中で、どういう推進計画を作っていったらいいのかを話し合っていただきました。事業の中身では、各市いろんな特色があり、年度的な計画も推進計画の中の資料としてつけている市もございまして、そういうところが参考になるかと考えております。浦安市でありますとか、宇都宮市であるとか、そういうところを参考にしていただきたいと考えております。それとあと新庄市が参考になるかと。
次に２回目の資料ですけれども、第１回目の資料とその会議の内容を受けまして、もうちょっと突っ込んだ話をするために、質問いただいたアダプトプログラムと兵庫県の参画および推進条例や、推進計画はどうなっているのかというご質問を頂戴しましたので、その資料を添えて会議を行いました。まだ公表はしておりませんけれど、市民活動団体基礎資料という調査の中でそれぞれの団体の方々の意見をお聞かせいただいた。その時の資料もつけております。みなさんにそれを元に話し合っていただいて、その第２回目の会議に出ました主な内容ですけれども、各市どういう中身，レベルの推進計画のどういう具体例を出しているのかというご意見がございましたので、そこの具体例一覧ということで最後のほうに市民活動の実現支援、各市が実際対応していることをいろいろ挙げております。
資料の特色は各市の研修でありますとか講座でありますとか、単発のイベントなど参画協働でよく実施されているようです。第３回目の推進会議ですけれども第１回目、第２回目を受けまして、みなさんの議論が、特に今川先生が一つ気になるのは、市のほうで市民生活協働推進の計画の中では、協働事業とか市民活動の計画・実行が中心となっているが行政の計画通りいくと評価と改善、こういうことが大事であると。市のほうが参画協働の在り方が基本にあって、それを支える市民活動あるいは自治会活動である。さまざまな意見

があっていいという意見を頂戴しました。また、円卓会議がとても議論になりました。言いたいことが言えるというのは相互の信頼関係を築き上げていかないと言えない。それは情報の共有化につながる。参画協働を市民とともに評価の視点をいれていく。評価というところに参画協働が抜けているのではないかとい貴重なご意見を頂戴しました。評価というところも参画協働で行っていきたいというふうに入れるべきではないか。２回目に戻りますが、市民参加協働参画のたたき台として作ったものですから、計画の目的や時間や評価ができていないということと、具体的な目標、市民参画手続の充実を挙げまして、それを元に推進計画を進めていかないとならない。ということで市が今後すべきことを大まかにあげただけで終わっていますので、今後この会議で助言をいただきまして、推進会議を充実させていきたいと考えています。

（今川座長）

ありがとうございます。次の３の議題も議論できればと思います。３項目に分かれていますが、フリーディスカッションで進めていきたいと思います。もう十分ご存じの方ばっかりなので、どなたからでも結構ですが、まず最初に議論すべき事柄について問題提起してくだされば。数日前に行われました推進会議は、円卓会議の性格あるいは機能をめぐってかなり議論されました。結論までは至りませんでした。おおまかには，市民相互が議論して、協働の在り方を考えるあるいは、公共とはなにかという大きなテーマで市民相互が、考える場が円卓会議。ただそこに行政がどのように関わるか、行政との接点をどう見出すかということが、一つの大きな課題として残った。なにかその場におられました国枝委員からなにか意見がございましたらお聞かせください。

（国枝委員）

先日の会議のところできちっとお話ができなかったのですけれど、こうやって市民参画協働推進ということですから、円卓会議という性格はざっくばらんにですね、ひとつのテーブルについて、忌憚なく話し合えるそういう場がこの円卓会議の機能だろうと思っています。実は神戸市のほうでも円卓会議というのは数年前から，NPO と行政との円卓会議というかたちで進んできまして、NPO 側からの意見を行政の方の各課の課長さんや係長さんに一緒に参画していただいて、協働提案というか、提案されたものを担当の課の方が拾い上げて一緒に作り上げていくという実例を神戸では実行しています。それなりに成果をあげながら 4～5 年経ちまして、改めて NPO と行政の協働による円卓会議を踏まえて、今年の目標としては、その中に芦屋の特徴である自治会組織との合同による円卓会議が望ましいのではないかということで、新たに市民の自治会組織の代表の方か顔の利くような方に参加してもらって、今後の円卓会議をどうしていくか、どういうテーマにしていくかということを踏まえてスタートを今またしようとしているところです。それが第３回目の推進会議の最後の資料のところに、１つの提案として芦屋 NPO 円卓会議案としてつけております。神戸のをもじって芦屋でもこういうことをやったらどうだろうかと提案しています。神戸においてもすでに実績があるとは言うものの、中間支援団体の NPO と行政でやってきたということをこれから地域団体といかに取組ながら、それぞれの強みと弱みは一体何かともう一度原点に立ち返って話を進めていったらどうかなと。とりかかっている内容のテーマというものを円卓会議で原点から考えていく。新円卓会の提案です。先般、自治会の連合会の総会というものに出席する機会が与えられましたので、そこで見た、あるいは経験した、感じたことを踏まえて、今日ここにいらっしゃる市民参画課の田中さんにお願いして自治会連合の代表の方々に、NPO についてお話する機会があったほうがいいなということで、先般理事の代表の方たちに集まっていただき、懇親も深めるような機会をいただいた。市民活動センターが市民、自治会との接点をもう一度最初からスタートしたというようなかたちの経験というか，機会を与えてくださいました。そういったことをもう少し勉強会のかたちでやるのではなくて、実際にそこの席に芦屋の各課のそれぞれの担当の係長さんくらいの方々が一緒に参画をして、一緒にテーブルについて話し合っていく。それは先般推進委員の方々から誰れでも円卓会議に乗せると、ごちゃごちゃになって収拾がつかないのではという意見があった。当然ながら毎回，何かテーマを決めて、テーマによっては関係ない方がしょっちゅう出席しなくてもテーマに添って行政にもきていただく。自治会の方たちも全部が出席しなくても、テーマによって分野によって、行政の方々が協働をしてきた内容を踏まえて、どんなテーマでどんな頻度で、どんなテーマでこの円卓会議の人たちが話し合っていけばいいのかをもう一度原点に立ち返っていくことが大事。市民参画協働推進、今まで神戸では割と NPO 中心でやってきたのですけれど芦屋の特徴は、地縁団体といいますか、できあがったコミスクのような組織を踏まえたこの活動に、私たちの NPO の経験の何かを一緒にお話することによって、そのお話の中で行政の方が一緒に交り合って、なにかを一緒に企画から一緒にやっていくという形の円卓会議をと感じて、第３回目に提案しました。それ以外に第３回目には事務局から各市の代表的なものでなく、芦屋らしいものとして取り入れたものは何かという宿題をいただいていたのですけれど、正直各市でやっているものも、多かれ少なかれ同じ様なものをやっていて、NPO とは何かとか、職員研修にしても、NPO のビギナーな人たち向け、あるいはマネジメント向け、理事長のようなガバナンスができるような人向け、そのような啓発活動であるとか、市民と一緒になって防災マップと作るとかバリアフリーマップを作るとか、いろんな NPO の地図を書いてみて、市民が NPO 活動が身近にできるようになるものを一緒に作っていうことを一緒にやってきた。数々の NPO と行政の協働事業があるのですけれども、ようはそれが順番でなにから着手していくのか、その時の予算はどうなのかを踏まえて決めていく必要があるので、いったい芦屋市としてなにをまず最初にしていくのか。5 年間の継続の中で、来年度は何を重点にやっていくのかという話になった時に、今までこちらのほうでお世話になった感じたことは、他市ができなかった地縁団体との協働を NPO と行政が最初から一緒にやっていくということが，他の市に比べても目新しいことでは

ないかと思っていますので、80 いくつの自治会といきなり一緒にやっていくのはあまりにも数が多いので、どうやって進めていくのかを、まさに一緒に考えていくということから、始めていく必要があるのかなと思うのですけど。私としてはいろんな推進委員だとか、アドバイザー委員だとか、全般の推進協働計画のコンサルタントのような仕事を担う中では、総花的な話よりもまずそんなものからスタートして、段々そこを突破口にしていろんなものが見えてくるのではないかなというような感じを受けています。先般でも、連合会の理事さんにお話しした、地縁団体と NPO と行政のいろんな図をもってご説明したのですけど、やっぱり各自治体によってチャート図がずいぶん関係性が違うと思うのですよね。実は神戸ではどうもそんな感じになっているようだというものをこの間提案させていただいたのですけれど、そんなような図をもう一つワークショップをしながら芦屋ではこういう関係性はこういうメリットがあり、こういうデメリットがあると一つ一つこうワークショップ形式で掘り下げていって良いものは活かす、そして悪いものは直していく、そしてそれぞれの立場で、二者だけでやっていくのではなく、三者が一堂に会してやっていくというな、そうした形の円卓会議で市民活動というものを、その場の提供をしていただいた市民活動センターを中心に、それぞれの人たちが寄り集まって意見を交わしていく。全部それが情報公開されていくというような形で円卓会議をしたらどうかなということです。

（今川座長）
よく考えたら芦屋で NPO といわれる団体はいくつくらい？

（国枝委員）
認証受けているのは、30 くらいかな。ボランティア団体を加えると 130 くらい？

（福島）
NPO 法人は３６です。あしや市民活動センターのホームページ登録のボランティア団体や NPO 団体は，127 団体です。

（高嶋部長）
数としたらもっとあるのではないかな。NPO を取ろうかなという動きをしているのが国際交流協会。事業内容というのが全く任意団体。ですからそれが NPO をとるというのは一つの登録ですね。今ここで登録している以上に団体はある。そういうのは今のところ把握できていない。芦屋市だと社会教育登録団体と言いますが，市民センターや集会所、体育館の割引ができるという、いわゆる社会教育の活動をしている団体ですよという。そういう機会のない団体は全然登録していない現状です。逆に言えば今までここで活動していたが、市民センターで会議したいなという時に、料金が高いから登録しようかなというだけです。だけというと語弊がありますけれど。われわれの把握していない団体がかなりあると思います。

（今川座長）
NPO と自治会と行政の三者の会談といっても、自治会はそれぞれ性格が違うという連合組織。法人格は持っていない。

（国枝委員）
最初は行政の意見を聞きながら、こうした人たちに集まってもらって、そこから始めたらどうですかというところから始めないと。そうした議論をし始めると、たぶん何も着手できない。まずは動かなあかんなと。

（今川座長）
神戸の方は NPO と契約をして、行政と円卓会議をやって何が協働できるか。提案の出しかた、予算はどうですか？

（国枝委員）
プレゼンテーションができる機会を得られました。15 分間で事前説明もなくとにかく案を出す。一緒にやれるものを一応検討してもらって 5 分ずつ個別に話をする。6 団体。

（大橋）
円卓会議に参加する要件はあるのですか？

（国枝委員）
特にありません。中間支援を中心に主に活動をしている人たちに声をかけながら、最初はこのくらいの人たちを集めればいいなかと始めた。実はそういうのはいきなりそういうのがあったのではなくて、行政が仕掛けてとにかく地縁団体も NPO も一緒に話しましょうという設定を行政がしてくれた。神戸の場合，それは市の市民参画課。市民参画課も同じように、NPO や地縁団体がなかなか分かりにくくて、それをトータル的にみてくれるような、神戸の場合は神戸新聞の相川さんと言う方にアドバイザーとして入っていただいて、彼女は行き詰った時に何かこう調整していただくかたちで市民参画課が一応司会進行しています。その最終章もいろ

いろ話し合って、じゃあ NPO がいっぺん何かを企画をして提案してくださいよと。今までは行政が来年度予算が決まってこれもすると決まっている中で、この指とまれで誰かしませんか？というやり方をやってきたけど、これからはみなさん方の提案に基づいて企画して予算付けするから、それが本当の協働という話はしてきた。

（外園副座長）
　行政と市民関係団体と、協働して推進するとしても、人・物・金・認識その組織の力という点で比べてみると、たとえ認証されているとしても NPO でも地域関係団体としても弱小ですよね。行政と比べもんにならない。
　行政の組織の力が幕内とすると他の関係団体は序の口にもならないから、いっぺんに相撲をとったら弱いほうが怪我します。強い行政としてじゃあ具体的にどうしたらいいかというとやっぱり見守ったり育てていかないかん。そこらのところを認識しないままに，力の差を認識しないままに、円卓会議をやっても成果は極めて薄いのでは。だから行政というところは時間を大事にします。会議した成果を問われますから、やってもやらんでも同じような、やっても効果があがるかどうかわからんという会議には出てきません。最初は珍しいからまちがって出てきても 2 回、3 回は出てこない。やるにしても持ち方を同じくらいの力のとこで、今日は NPO の人たちに集まっていただいて、ここでは地域団体その他でやる。そのうち大体煮詰まったところで、じゃあそれぞれにプレゼンテーションとやって要旨を持ち集まって、共通認識するような話し合いができないか。段階的にもっていかないと無理と思われる。

（今川座長）
　ステップの踏み方は参画でできない事業ですけども、あと条例で市民提案を制度で作っているので一つの方法としてできるといいですね。突破口を市民の方から提案をしたという。

（外園副座長）
　条例に、強い、弱い、大きい、小さいは別として市民のみなさんの意見や立場は大事にしますと書いてある。
　事実それはせなあかん。真剣に聞かなあかんけど、すべてそのままできることではないともはっきり申し上げないかんし。円卓会議の場合も課題は効率でしょう。時間や労力をかけて話し合ってどの程度共通認識が得られるか。私はこの 2 年 8 か月くらいのこの芦屋の会議で数回強烈なショックを受けた。そういうように思うのですけど。勉強せなあかん、研修せなあかんというのは市の職員の方も議員さんも市民も一緒。一番最初に底上げをせなあかんのは、NPO になろうとしている任意の団体とか、興味や関心があってやろうとしている人の底上げやないかなと。しばらくそこで、円卓会議なり繰り返してそれ相当の共通認識が出たり、やる気が出たりしたところで、好きなところとドッキングしていく。また会議をする方がいいんじゃないかと思われる。

（国枝委員）
　いろんなステップがあったほうがいいんで、こういったものをやってて、一 NPO としてよかったなと思ったことは、なかなか小さな NPO が何か相談に行くと、行政側が、いや神戸にはいっぱい中間支援 NPO があるからここへ、あなたの近くにはこういったところもあるからそこで相談しなさいと言われる。行政の方と直接小さな NPO が聞きにくい状況だった。それが円卓会議のような協働会議があった時に、「初めて、この行政の方がこんな分野を担当しているのだ。」と顔がやっと見えたと。今は直接怖れ多いし、なかなか見ることもできない、話しかけることもできない。担当の方が見えるようになったのは非常にいいと思う。芦屋の問題点はどうもかっこつけて、なかなか自分を裸にして実はこう思っとってんという機会がかなかなない。そういった機会を作ることでいい意味でのカミングアウトがあるかもしれない。神戸だとこういう中間支援センターができると、「もっともっとあれもやってこれもやってお金のシステムも。」とわんさか来るのに。芦屋では、そんなに困っているふうな情勢がないということはなにかとらわれがあったり、もう一歩前に進めないなにかがあるのならそこを解きほぐしてあげられる何か仕組みはないか。円卓会議も理想形は理想形としながらも、外園先生が言われたような最初の段階でそのレベルにない人たちをどうそこに乗せてあげるか、会議の場をつくることもその一つではないか。

（外園副座長）
　団体とか組織とかの力は、人数と予算を見れば大体わかりますよね，どの程度か。弱小団体が非常に多いわけですから、弱いところは弱いなりに集まって話し合う。市民センターの事務局としてはさしあたって、加盟、賛助した人たちを集めて、そこで国枝委員、あるいは海士委員からご指導をいただいて、NPO について理解する。同時にもっと市の職員よりも議員よりも勉強せなあかんのは、市民のみなさんですよということを伝えていく。具体的にどうすればいいんや。市議会の本会議でも、見に行きましょう。市役所の中をウロウロセえと。年がら年中冷暖房効いて快適。そうするとあそこに財政課があって市民参画課があってとわかる。来ないいままに市役所の人は固いから、話しにくいんやからというのは市民の怠慢ですわ。本会議の傍聴にいっても入場料は一銭も不要。そうすると議員さんが言うてることは勉強にならへんけど市の部長、市長、副市長の答えるのを聞いていたら中身が濃いです。やっぱり出資というのはそんな考え方なんかなぁと。借金がいくらあるんやな、一人当たりなんぼ背負てるんやなとあれでわかる。同時に議員に対してはある意味プレッシャーになりますが元気を与えることになる。目をじっと見てたらがんばらなあかんと。そこらのところを市民セン

ターで集めた地縁団体その他の人たちに話をする，効率的ですよ。

（国枝委員）
事業として市議会視察ツアー。まず芦屋市の実態を知ろうツアー。

（外園副座長）
選びっぱなしじゃダメですよ。どの議員が積極的に動いているのか。こういう議案に反対するのかというのを我々が知って、議員を育てるのは我々。こういう意識になってもらわないといけません。それが協働やと思います。いろんなとこへ行かしてもらうけど違うんですよ。その意識とか。たとえば選挙管理委員会関係の団体の委員さん 100 人、教育委員会関係の役員さん 100 人やっぱり違いますよ。
で、ある種の共通認識しておられますから次に移りやすい。そういうものを活動センターの事業としてやろうと。正会員、賛助会員と違う形で支えている。どうでしょう。もう一つ言いたいのは市民活動センターの事業が始まろうとしている。会合に出ていたら、意欲的なんですよ。自主的な活動をされようとすることはよくわかった。それを奮い立たせる。われわれは恵まれている。芦屋市くらい市民活動センター設立に関して、場所を提供しお金もつけるという前向きの姿勢は好意で他でやっている所はない。神戸市さんでさえしていない。これもわかってもらわないと。ちょっと言いすぎかもしれんけど市民は贅沢、甘えすぎてるんとちゃうかと。市民参画協働推進の流れはできかかっているように思う。これに勢いをつけないかん、その方法ですね。なんか部長言うてください。そうはいきませんよとか。

（高嶋部長）
外園先生がおっしゃいましたように、これは行政の感覚を変えていかないといけないのではないか。これは自分でないと、行政マンでないとできない仕事やという意識が全般的に強い。ただ，今，言われた力の差という表現がいいかどうかは別として、ほんとに任せるのかなと，そのへんの市民参画課のほうで洗い出しをするように，市民参画課からも十分ヒアリングをすると言ってますが、なかなかこれ簡単な話でないと思う。所轄というのは自分の仕事が一番大事で自分がやらないと出来ないという意識が強い。その仕事を市民活動センターでコーディネートして、実施してくださいという時に、市民センターの一事業を請け負うようにやった時、市民センターはその事業に対して知らないとはいえない。その時に市民団体とトラブルが考えられますのが、どこまで市民センターがコントロールできるか、していくか。丸投げという形がいいのか、そこまでできるのか、市民参画だけを見れば丸投げでも市民の方中心でやってくださいで言い訳なのですが、一つは行政目的という税金をつぎ込んでの事業をやっているわけですから、結果責任を所管が持たないといけない。その兼ね合いがどうもこの市民参画でいく、市民にやってもらえることはやってもらうという基本的な政策で進めていくのですけれどそのへんがネックになってくるのかな。そこを解決しないと、所管がもっている仕事を市民参画でやると言う手の挙げる方が出てこないと思う。具体的にいいますとね、行政は常に市民センター、ルナホール今まで文化振興財団でやっておりましたのが、市の直のものがやっている。以前直の職員がやっていたこともある。どうしても行政マンが人事異動でいって、文化行政で落語もあり、クラシックもあり、聖歌隊もありという文化事業では人が変わるとそのノウハウがなくなってしまう。そういうのを市民参画で考えられるわけですけれど、その結果責任はどうなるのか。市民活動センターがコーディネートしていく結果責任がどうしていくのかな。各地で同じような事業をやっておられるところもあると思うが、その兼ね合いはどうか。

（外園副座長）
その兼ね合いがどうかはおっしゃるように難しいところです。そこをうまいことやるのが運営の妙というやつですよ。大橋さんや田中さんが，この仕事は自分しかできないという意識は必要かつ大事なこと。ただそれだけしかやらんというのはいかん。やっぱり市民参画課にいてるわけですから、ＡとＢとＣとあったら私はＢを中心にしたいが、市民参画課としたらＡもＢもやれるような態勢はつくっておくというのがひとつ。もう一つは委託事業を渡すときに、事業はこれ、予算はこれだけ、もう渡されたらそちらが結果責任を持ってもらうのですよと課長や課長補佐がピシッということ。大事な市民の税金を使うことですから。

（国枝委員）
委託は委託元に責任があります。委託先の責任ではない。

（外園副座長）
いいや、行政としては、市民参画課が大事やけど委託させた信頼関係の元に引き受けさせているわけですからこの結果は出してもらわないと困りますという条件。

（国枝委員）
最終責任はやっぱり委託元になるんで、しっかりコントロールしないといけない。

（外園副座長）
いや、そうしてしまうとね、結果的に行政、もっといえば市長が責任とらんとあかんねん。そこまで言うた

ら、いかんので、やっぱり担当課長としての責任はあるけど、これは実際，活動して結果を出すとこまでは受けた団体。金は出すけど口は出さんというやり方をせんと市民はこっちを向いてくれませんよね。なぜなら受けるほうは営利でするのとちがう。芦屋のためになるやろうし、できると思うからするわけ。見てたら市民参画課が市民に対して遠慮気味やと思う。言いにくいことは先に言うてくれたらどないですか。あとの喧嘩を先にやれ。

（今川座長）
気になるのは事前の議論は推進会議なのですけど、すべて実施段階における議論ですね。要するに、総合計画から始まって各種計画、そして事業計画もそうですね。計画づくり段階からの参加があって、そこでやっぱりお互いが役割認識しながら、ここまではできそうだというところをやって、計画が決まったあとに実施段階に移っていってその時、やっぱり計画から参加してるから一定の責任感を持つんだろうと思うんですけれど、一連の過程の議論がないということが気になるところ。

（外園副座長）
協働で仕事をして成果を上げようと思うのなら、面と向かっているときにもっとしっかり言い合わないといけないのではと思うのですよ。両方とも遠慮はいりませんよ。それで納得すればやりましょうというふうにしていかないと協働推進にして結果があがるというのは難しい。遠慮がある。

（高嶋部長）
お互いに問題点はきっちり整理した上で。遠慮があるのかなあ。

（外園副座長）
あると思いますよ。見ていたらあると思う。かと言うてしっかりやるというても、喧嘩別れしたら元も子もないわけですから、行政が言いにくかったらこういうメンバーが言います。推進委員の一人としてあるいは芦屋市民としていこう思うという本音は言える。

（海士委員）
口出ししたらあかんというのが先に思われるのかもしれませんけど、協働というのは両方が対等で同じことを言って初めて成立するものなので、口出しとかという意味とは違いますよね。だから言いたいことをお互いが言って、どこで折り合うかどこで合意するのかそのケースバイケースだと思うのですけど、片方が口出ししてもあかんし言わんとこか…ではいいものでできないやろうし。反対に民の側が言いたいことだけを言っても事業として成り立たないと思う。

（外園副座長）
例えば、神戸市でユニバーシアードがあってその 4 年後に、環太平洋障害者スポーツ大会があった。主催実行委員会を作ったのは神戸市なんですけど、開会式でも閉会式も競技そのものも神戸市だけではできないわけですよ。そうすると体育協会とか、陸上競技協会とか、閉会式の演技に 600 人出してくださいと言われた時に協働ですよね。予算は 3000 万円出します。あとは受けたところが責任をもってユニバーの学生さんたちにまかせてもらったのでやりやすかった。そういう形なら協力しましょうとなる。一つの事業に 100 時間なりやるわけですからしんどいことです。それでもメリットはありますからね。あまりいろいろ 3000 万円出したからと言って担当部署のやりかたが気に入らなかったら市民はしない。

（海士委員）
役割分担ですよね。一つの事業をスるのにどのようなことが必要かをお互いが話し合って、これは市がすること、これは NPO がすること、また当事者がやることという役割分担をしてみて、さらにそれができるかどうかという議論をして初めて動き出す。

（外園副座長）
役割分担の話をする時に面と向かってお互いに言いにくいことも不都合なこともおかしなことも明白にしていく。ユニバーでも夏休みもなしにして汗流してやるわけですよ。参加者と同じメダルを運営協力者にもあげてくれと進言した。神戸市そんなこと考えてなかった。参加者と同じメダルは一生もらえないのでぜひと。役割分担を決めるときの話。

（海士委員）
もちろん、フラットな立場で意見を戦わせるということ。

（外園副座長）
神戸市も金を出したからいうのではなく、事業を成功させたかったからこういうふうにやってほしいのと芦屋も一緒だと思う。

（福島）
今ちょうど各課で、参画と協働で行えるような事業を課長さんとヒアリングできる準備をしているんですけど。障がい者の運動会の担当課長さんがおっしゃったのは、この事業は市民の手で行うのがふさわしいので、あしや市民活動センターが中間支援の役割をはたし、市内のＮＰＯ等で行うのが良いのではないかとはっきりおっしゃった。行政の側では自分たちが仕事で主体的にやっている運動会ですが、それは市民との協働作業だという自覚は十分ある。それを市内のＮＰＯ等がやることにより、発展や充実もしていくのではという判断がまずある。ところが普段その運動会に参加される方は、市民ですがその方たちからこの事業は私達がとりましょうという声がなかなか新たにわいてこないそうです。形式的には委託でしている事業であるけれど，実際は職員が全部やってますと担当課長さんが言うわけです。そこに市民活動センターにあるノウハウであるとか，新しい視点の提供とか、問題点の洗い出しという作業が今はやってないためにマンネリ化している感じ。参画と協働でやるにあたっては今までのやり方は変えたいとは思っている。ノウハウを提供すれば新しいやりかたでできるし、センターで間に入っていただければできるということを気付いてはっきりおっしゃっている。果たしてこういうことが他の課で見られるかどうか。市民とよく接している課は参画協働はやるべきだとお会いしている課長はおっしゃいます。その視点が行政に大事なのと、市民のほうも自分たちから、その仕事が自分たちの手で全部やれるという状況に至っているということをあまりご存じないのが現状と言う印象です。

（外園副座長）
そこまできたらね、市民参画協働事業を推進するための意識改革、市の職員については大橋課長が責任を持ってする。市民の皆さんには市民活動センターの事務局でやってください。お互いに協力しましょうということをはっきりさせないといけない。これは市役所と市民の関係だけでなく、学校の先生がたと保護者の関係と一緒ですよこれまでは、たとえば「小学校生の知的な力も体力もしつけも学校でやってください。」と保護者が言うことを全部学校で受けたからすべて満足にできなかった。その結果が、今の現状でしょう。今までは市でやってきましたが、これからは市民中心でやってください。最初は幼稚でもいいじゃないですか。市民自治になるんですよ。だから市役所がやっている仕事を市民が引き受けるようになる。

（国枝委員）
今の話の流れで気になる点、注意して欲しい点があるのですけれど。協働作業において今のような流れで行いくと行政の方が、丸投げして市民主体でやっていいからと完全に手を抜いて、楽になったというやり方でなくて、主体は市民でもあくまでも協働なのだから行政の役割はちゃんと果たしますよ。ややもするとお金の面が無視されて、ＮＰＯがするのもいいのですが、作業たとえばイベントをすることだけと受け持ってしまって、ただでするということではない。行政がそのイベントで使う人件費も含めての事業費はいくらか、カウントしてください。そのコストを少しでも軽減するために市民が参画するわけです。すべて市民がやってよというのは大間違い。注意しないといけない。イベントも円卓会議もすべてお金はつけてほしい。たとえば福島さんが（県民交流広場事業で）今までこれだけの時間を費やし、彼女の給料でいくとこうなる。これは高いこれを市民参画がやることによって少しでも安くなって市民も喜べる。市民活動センターに今ついている予算で総てができると思われたらそれは違う。

（外園副座長）
そうならないようにつてがある。例えば市役所の場合は担当の大橋課長がお膳立てをして、市の課長・係長はじめ職員に国枝委員から今のようなご指導をしてくださいという場所を設ければいいし、県・市に丸投げはない。やってもらうけれども必要経費が今までより少なく済んで、市民の責任感とか協働意識が出てくるという結果を出さないといけない。そのためには行政の人は見守ってもらわないといけない。市は市でまとめてご指導いただく。円卓会議は関係団体とかＮＰＯでまとめてやり、それを国枝委員・海士委員でご苦労頂くという風にすればまとまる。

（国枝委員）
そういうものを決定するにあたって、裸の状態で、やっぱり市民がやったほうがいいよねというプロセスを円卓会議というか、場を設けてほしいんです。市民参画課で洗い出してできたものが、市民活動センターでやらせようと来ると思う。我々がやるとしたらこれだけのコストがかかるのですよ。こんな人材が居ないと出来ない。福島さん丸投げできませんよ。仕事は軽減されませんよという話し合いをしないといけない。僕がするのではなく市民がやる。市民活動センターが仲介して、話しやすくしてあげるのが僕の役目。そういう市民を育てていかないといけない。

（外園副座長）
やることは大事だけどやり方を別々にやらないと。市民が市民がってそんなもの，分かっている市民ばかりじゃない。結果としては怪我して傷つくだけ。

（高嶋部長）
今の国枝さんのお話ですが、市民活動センターのイメージが少し私と違うかな。仰ってる意味はわかるんで

すが、今までのやり方がそれだと思います。市民参画課と市民がもっと共通認識を持ってやらないといけないのですが、市民参画課とＮＰＯ団体が話し合うのか、私はコーディネートは市民活動センターにやっていただけると思っていた。話し合わないと言っているのではない。直接話しあうこともあるとは思うのですが。

（国枝委員）
中間支援センターですから仲介となって行政と市民を繋ぐ役。

（今川座長）
市民活動センターを通じてしか話せないというのはおかしい。ＮＰＯと行政が直接話し合うのも当然ある。

（国枝委員）
行政側が中に入ってとかＮＰＯ側が入ってという時に入るんであって、センターを通さないとならないと言うのは困ります。

（外園副座長）
市の職員の方へのレクチャーと議員さんの研修と、支援団体・NPO・その他の会員とは分けてやりますね。夫々の代表が円卓会議をやるというのであれば旨く行くと思う。後はここへドンドン来ていただいて、いいものを作りましょうということで、直接 NPO と市が相談すればいい。やるからには自己責任が伴うと言う事をはっきりさせておく。

（高嶋部長）
市民参画課も市民活動センターと同じ立場になろうかと思う。行政内部でも。

（外園副座長）
そうなんです。だから先程大橋課長にお膳立てして下さいと言ったのは、課長が課長に言っても、課長が部長にいっても、理解してくれない課長も部長もいるかも知れないから、お膳立てをして専門員に来てもらって話をしてもらう方がよい。

（海士委員）
ある意味両方とも中間に立っているのです。市民参画課もセンターも同じ立場です。そこが旨く話し合って市の事業をここで審議し、又センター側と審議し、直接ＮＰＯがするかセンターの事業とするかは全く分かりません。色々なところが関わることは当たり前です。市民参画課もコーディネートする立場です。

（外園副座長）
大前提として市の職員と借金を減らさないといけないんでしょ。

（高嶋部長）
減らさないといけないし、市民参画でやってもらわないと廻らないところまでいってますので。

（外園副座長）
市民の責任も大きい。これだけの市で１，０００億も借金したのは当時の市長さんにも責任はあるけれども議員もチェックできなかった。でもその人達を選んだのは市民ですから，市民も責任を負わないといけない。

（今川座長）
ただそうは言ってもＮＰＯ・市民活動センターを自立化していくためには、当然人を雇える力もつけなくてはならない。安かろうばかりでは困る。活動センターが中心になってＮＰＯを支えたりしながら、算定基準とか算定方式とかを市と共に編み出していく必要があると思います。委託するとき民間とＮＰＯでは基準は全然違いますよね。

（国枝委員）
全然違います。

（今川座長）
それをやってると市民活動の基盤というのは成長しない。

（国枝委員）
外園先生が、市民に給料は行政並み、寧ろ高いぐらいでないと続かないといわれるが現実的に有り得ない。

（外園副座長）
有り得てる。自分がやってるから言う。芦屋市からの委託事業の金額は増えて欲しいけれど、センターのや

る事業の率としては下がらないといけない。主催の事業を増やし、会員を増やし、収入を増やさないといけない。それは理事長以下理事会の責任です。

（国枝委員）
　あしや市民活動センターとＮＰＯ法人の立場の話とがごっちゃになりつつある。行政と市民との協働の中で、市民参画課と大橋課長が先頭に立って市民の立場で物を考えて行政に調整していただかないと、そちら側の意向だけでやるぞでは全然違う。神戸市でも市民参画課は向こう側しか見ない。こちらに来てこちらの立場でそちらを調整してくださいと。部内調整に偏よりがち。もう一歩踏み出していただいて市民活動センターＮＰＯ法人、今までは直轄だったから出来なかったけれど、１０月１日からは業務委託をするわけですが、市の責任は残っているわけですから、市と委託先はフィフティフィフティで役割・権限・責任を持って、とにかく市民に出来るだけやってもらいたいんだから、今のうちは私達の力を貸してあげるよという姿勢で取り組んでくれたら、ドンドンやりましょう、となるけれど、疑心暗鬼のままでやっていたら、いつまでたっても進まない。一歩進むことが協働推進の一番大きな点かと思います。

（外園副座長）
　これまでの市長とか副市長とのここでの会合や、条例を先生中心に作って議会で承認をしてもらった過程をずっと見てみますと、方向としては正しい。こういう生き方をすべき。ただもう少しスピードが欲しい。スピードをどこで出すかというと、市民参画課と我々です。方針・方向・考え方は立派なものです。福島さんが一人で一生懸命に仕事をされてるのはいいことです。けれど、国枝委員がいわれるようにもう一歩先に踏み出して、市民と市役所の関わり現状では、市民参画課全員，残りの大橋課長と田中課長補佐も当然責任を持って仕事をしないといけないが出来ていない。但し実施運営についての責任は理事長とこちらがやる。そんな形で各団体と当たって頂かないと前には行かない。

（高嶋部長）
　あしやキララという有線テレビで流している芦屋市の広報チャンネルで移されています。その中で、アレッと思ったのですが、今は市直営でやっていますが、１０月からは市民参画でやりますといっている。とても違和感がありました。

（福島）
　市民参画でやりますではなくて，業務委託で市民（ＮＰＯ）手でやりますの間違いです。今は市直営です。別に，４月からＮＰＯの専門相談等の業務委託契約はＮＰＯ法人（ＣＳ神戸）と結んでいますが。

（高嶋部長）
　両方とも業務委託です。市民活動センター事業として業務委託。

（大橋）
　仕組みづくりに相談業務も入れての CS 神戸との契約です。

（高嶋部長）
　１０月からは市民によるＮＰＯへの業務委託に変わります、ですよね。今、国枝さん･海士さんから見られていると、行政ばかり向いていると言われたがどちらにも欠けている話でして、我々の反省材料としては認識しておりまして、４月から私も変わりましたが、市民参画課は走りながらやっていますので、充分な議論がお互いに欠けていたと思います。ＮＰＯ組織になれば益々密に情報を共有化していかないと、ちょっとした認識の違いが全然違う方向に走ってしまうことになりますし、推進会議でも出たのですが、行政は口出ししないでと、我々は常に認識は持っている。市民から見ると口出しと、支援のエリア分けの難しいところです。

（外園副座長）
　力のない弱小のものを育てようという立場の行政ですから、見守るために口出しするのは当たり前のことです。だけど、繰り返し申し上げたように、指導･助言はお願いしますが、命令・監督はごめんです。これまでずっと今川先生がうまく舵を取っていただくから、会議がスムーズにきた。市長・副市長のお考えも分かりました。ありがたいと思っています。部長に変わられて，高嶋部長のお話しを聞いてすっきりしました。そういうお考えなら我々もやりましょうかという気持ちになってやっています。市民参画課としては遠慮しないで、積極的に言って欲しいし、やって欲しい。市の職員に協働参画推進するための、新改革や認識は課長が中心でやっていただいて、市長・副市長への説得や説明は部長からやっていただいて、市民については貴方たちがやれと言ってくれれば、理事長予定の人もやる気で取り組んでいる。瞬発力があるじゃないですか。あの日に早々にＮＰＯに参加する人たちに召集令状がでるなんて。間違ってもああやってやらないといけない。意欲と実践力はすばらしい。

（福島）
　理事長候補の方は，今日も、９月から毎日来ますといいに来られました。

（外園副座長）
　それだけでもありがたい。そのうち表彰状を出してください。成果が上がれば。

（国枝委員）
　理事長と大橋課長が一体化してやればいいものになる。福島さんが主体的にやっておられる。市民参画課全体としての一体感は余り感じられない。理事長候補がもっと市民参画課と一体になって、僕らが出来なかったことが彼なら出来ると思います。期待しています。動くだけではなくて、経営者ですから事業を色々考えながら、行政にもきちんと自分の意見を出せる方なんで心強いなと思っています。

（外園副座長）
　市に協力するというなら、市に顔を出さないといけない。次に金を出さないといけない。それができなければ智恵を出さないといけない。その３つを出すのが協力だと思います。めったにしか来ないのは協力とか協働にはならない。市が国枝さん・海士さんの意見を聞いていただいてここまできている。感謝しています。市長・副市長・市と我々関係団体がうまくいっているのは余りない。

（国枝委員）
　それは高嶋部長からヒントをいただけたからです。もっと早く言って欲しかったですが。

（外園副座長）
　ひとり立ちするまでは市がやりますと約束されたのだから、人事と予算については我々が口を出してはいけないと課長と部長が決裁していただければ一番いい。国枝さん・海士さんが口を出すのは言いすぎ。市の事を一番ご存知だし。行政が予算を出し責任を持ってやれと仰ってるのだから、部長にやってもらうのは正解です。

（国枝委員）
　非常に遠慮していただいていて、行政が作ったではいけなくて、我々が自主的に選び関心あって作ったと結果的になった。結構踏み込んで協力していただけた。そういう踏み込みが大橋課長からも欲しい。課長はかなり遠慮しておられる。

（外園副座長）
　同じ市民参画課にいるのだから、担当が違っていても黙ってみているだけでは協力していない事になる。担当者以外の２人が協力しないのに他所から力が出せない。大阪の府庁に１０年いる間に、１２団体担当していました。専門職が素人の意見を聞くのは何故と思いましたが後で思うといい勉強をさせてもらいました。

（高嶋部長）
　市民参画課より市民との間合いの取り方が、一番微妙で難しいところであろうかと思います。

（外園副座長）
　それが市役所の職員全体の仕事ですから、誰が市民参画課にくるかわからないでしょ。事務方は大体３年で変わる。

（福島）
　気がかりなのは、市の協働の事業で、担当課長に予算書を持ってきてもらい、業務の内容と職員の残業量・所要人数・所要時間を聞いています。そういう仕事をセンターに持ってきたときに、市民団体は暇ではない。忙しい方たちに魅力的な事業だということをＰＲしないと受け手がみつけられない。この半年で受け手、或いは受け手の意識を育てていかないといけない。市民活動センターに中間支援として期待されてきます。理事長候補は受け手の育成や受け手の意識の育成も考えている。

（外園副座長）
　理事長や理事候補になった人にやる気にさせるのは貴方と２人の市民参画課の仕事です。理事のみなさんはＮＰＯとか民間団体をやる気にさせないといけない。そうさせるためには魅力が必要。魅力の元は情熱。それと専門性に精通するところ。プラスいえば人間性。勤めているひともそうでない人も皆都合がある。暇な人はいない。その人達を動かすにはその気にさせてもらわないと行けない。

（福島）
　理事候補の中に芦屋川カレッジ・コミスク関係の方もいらっしゃるし、センターに関わって下さっている人の中にナルクの人もいらっしゃるし、組織としては都合がいい。だから、面白いし、紹介したいと思える所までくれば、色々な事業が動き出すと思うので、そこにいたるようにこの半年間で作り上げていかないといけない。それを見据えて推進計画を作っていかないといけない。

（外園副座長）
　いままでのあなたのご努力はしっかり実になっています。いいメンバーがそろっています。理事長候補や役員が他の人をやる気にさせることです。そういうのを行政が見守ることだと思います。丸投げは責任放棄になる。

（海士委員）
　理事候補のなかで、思いの違いが見えてきた。関わりかたも違う。共通認識をしっかりしたいと言われています。

（福島主査）
　センターと市民参画課を毎日行き来して両方見ている中で、参画と協働の分野をセンターのコーディネートの下に行い、その課長はその成功例をみればセンターに仕事を渡せば得だとわかると思う。職員の超勤などで各課長は苦労されています。早々に成功事例をつくれば事業は毎年毎年増えてくると思います。無理やり取ってくるのではなく、１件１件慎重に検討していきたい。丁寧な仕事をする中で、行政側に参画協働の理解を得たいと思っています。

（今川座長）
　行政側が一杯メニューを出したいと言っても、市民側がやりたいといった事柄に行政側が合わせるという努力を１つでも２つでもしていくと。突破口としてはいいのでは。

（外園副座長）
　あなたの今の活動は問題ない。残念ながらセンターには実績はないのです。だから課にセンターに委託して暮れと言うことは言いにくいですね。少しセンターが実績を積んだ後で、どうですかと課長･部長にお口添えいただいて理事長からその課にお願いしていく。そのうちに歩合が悪いので出来ませんと断るくらい主催事業をやっていけるようにしないと。そうなると市役所は困る。させてくれ、やりたいんだという体制にしておいたほうが、関係はうまくいく。市のご好意はありがたいと思っています。とにかく市役所の中の仕事を減らさないといけない。そうですね部長。市民としては借金を減らしてもらわないといけない。

（高嶋部長）
　市民参画の受け皿としては今後の NPO しかないのかと当面は。

（外園副座長）
　出てくると思いますよ。民間企業・団体から。株式会社が入ってきたら外の民間企業は儲からなくなる。

（福島主査）
　形的には中華の円卓のように、前の料理をいるなら止めて、いらないなら廻してしまう。参画協働でやったら成果も上がり市民の満足度もあがり、サービスも向上するというのがまず，第一段階の理想的な姿です。

（外園副座長）
　その時に、福島さんは課長や部長の力をもっとお借りしたらいい。

（福島主査）
　現状を伝えるなかで動いていただいています。状況を出来るだけ早く伝えるという意味もあります。参画協働の新規事業を考えますと、センターに集まっている NPO さんや理事さんたちの顔ぶれをみますと、人材育成とか講演会・研修事業、人的資源が豊富なので講習会事業はかなり充実できると思います。芦屋の特色は人的資源ではないかと思います。今そこにいる人で旨くマッチングして活躍していただくということで推進計画は充実していくのではないかというのが現場の印象です。

（外園副座長）
　そういう意見もたくさんあると思います。狭いエリアで９万２千人の連絡網も密にできるでしょう。

（大橋課長）
　話は戻るのですが、円卓会議というのは市全体の分なのですか。区ではなく神戸市全体ですか。大きいですね。受けて出てくる NPO も各区から出てこられるのですか。

（国枝委員）
　十数人の係長・課長がでておられる。たぶん主だった NPO が話し合って出てこられていると思います。

（外園副座長）
　参画協働推進関係課長および係長ですか。そのレベル・数なら意味ある会議になります。

（今川座長）
　ＮＰＯについても神戸市は市役所が中心なのですか、支援団体は区役所ですか。

（国枝委員）
　小さなＮＰＯ･ボランティアは区役所です。まちづくりをしているのだから少しでも少ない税金で町をよくしたい。ＮＰＯ夫々の意思を持って自分の出来るところを手伝うという、今まで押し付けでやってたものを市民から発意されたものを行政も一緒に協働してください、という為の円卓会議です。

（外園副座長）
　芦屋もまちづくりではそこに繋がらないと。

（国枝委員）
　今のイベントや祭りは市民にやって欲しいわけです。テーブルにセッティングはしてあげないといけない。福島さんがこれは出来そうだ、無理そうだとか勝手に判断せずに、やるかどうかは場を持ってあげないといけない。

（海士委員）
　実行してくれるＮＰＯや自治会組織を、センターと関係付けてイベントとか祭りによって、１つのところが受けるのではなく、３つ４つの自治会が受けるとか、ＮＰＯが出来るとかバリエーションが考えられる。受け皿というか担い手を育てなくてはならない。芦屋の特徴的である自治会に対して、円卓会議に持ってくる前の段階で、例えば僭越ですがエンパワーメントしていくとか課題に気づいていくようなファシリテーションをしていくとかすることで、自分達の地域はどんな課題があってどんなことが出来るのか、ということの意識付けが出来れば自治会８０団体、全部は無理ならエリア毎にワーク的なものとヒアリング的なものを足したものをこまめにやっていって、受け皿を育てていくのも中間支援センターの役割です。事業として独立して人件費も含めて、専門家を呼んでくるのならばその費用とかが自治会との協働していく上に必要です。底上げしていくようなものがまず必要だと思います。

（今川座長）
　調査研究も引き受けなくてはいけないですね。

（国枝委員）
　ビジネスがあってやりがいがあるしお金も儲かる。それは税金なんだからきちんとしなくてはという意識も芽生えてくる。

（外園副座長）
　立ち上がればそういう材料がそろい、ご両人のご指導を受けながらやれる。今お聞きのように国枝委員・海士委員はそのノウハウはしっかり分かっている。後は大橋課長ですね。もっと積極的に出て行って手を借りたらいいのですよ。市民との接触は市民参画課の仕事です。

（福島主査）
　例えば県民交流広場でも市民は行政が考える以上に責任を感じるようで、プレッシャーになっている。ある県民交流広場代表の方は、生涯かけているような気持ちになってしまって、それも一因かと思いますが病気をされました。他に本業やその他の役職を引き受けている中で、交流広場に責任を持ってやるのは物凄いプレッシャーだといわれる他の県民交流広場代表の方がいらっしゃる。無償でやっている市民活動と言う面もある。市民活動の社会的な責任は、今まで会社を経営している中で感じるのと同じほど感じるようです。今までは大原（月４～５回　年間約５５回）と西蔵（月１～２回　年間　約２０回）の県民交流広場事業（イベント）にはアドバイスを求められるので、出来る限り出席していたが、私の新たな仕事にあしや市民活動センターの立ち上げと支援が加わり、今は実質的に職員一人体制でしている状態では不可能。潮見集会所も今年度から県民交流広場事業（イベント）を始め、翠ケ丘集会所は企画をまとめる仕事をしていて、こんど今年度の県民交流広場事業応募団体のコンペがあり、その準備やアドバイスをしている。又、新たな仕事が加わり重要な仕事が増え続ける中で課内で分担や応援が全くないし、内容を理解しようともしない。センターの智恵をお借りしながら支えていかないと、市民活動というのは常にいろいろ困難な課題があります。集会所や自治会の会長が悩んでいる中で、周りの人だけでは支えきれない部分がありますので、身近にいる行政が早々に気づいて，声を掛けて支えていかないといけないと思います。代表者は色々な市民の意見を調整する役割を担うため周りの方に言えないことが色々あり、自分ひとりで悩んでいる人がたくさんいます。あしや市民活動支援センターのＮＰＯ専門相談員に相談するように，こちらからつないでいくことも大事だと感じています。

（外園副座長）
　そんな積極的な人も芦屋にはいらっしゃるのですね。先週のあしや市民活動センターを担うＮＰＯ会議でもそうですが、非常に几帳面な銀行員だった方は、１円でも違っていたらいけないという考え方で、市民活動はなかなかうまく行かないと思うが、一生懸命に仰ることは、私たちの力になると思いました。

（海士委員）
NPO の会計の勉強をされています。
（福島主査）
１０月から業務委託し、あしや市民活動センターを担うＮＰＯの方々にお会いした。そのうち何人かはこの事業に生涯をかけてやるとおっしゃっています。中間支援の立ち上げに面白さややりがいを感じていただいているようです。

（海士委員）
とてもお忙しい方でもお声をかけたら、今までの仕事はもういい。功を成し名を成し遂げたので社会的には満足している。市民活動など新しい事をやりたいと。面白かったらするという人達です。

（国枝委員）
それと後継者育成を決断されて、自分のやることがなくなったというのもある。今の福島さんの問題点も後継者を育てないといけない。人育てを考えていかないと。

（今川座長）
芦屋というのは経済的にも時間的にも、他の市でみるような、一定の収入を得てというような組織として継続性をつけるのは難しい。

（外園副座長）
だから好きになってもらえばやってもらえる

（福島主査）
先日国枝さんのお知り合いで、男女共同参画の委員の方がセンターに来ていただいたときに、センターの中間支援についてお話しした。あしや市民活動センターって入ってこられるのは男性が多いと感想をもたれた。今まで事業で培ったノウハウがセンターに生きつつある。

（海士委員）
女性が少なくて困っているくらいです。

（福島主査）
いただきたかった意見の１つに、「芦屋市に相応しい今後の参画と協働の事業について何かアイディアはありませんでしょうか」というのがあります。

（海士委員）
前回国枝さんが提案されたように、円卓会議でどんな事をやっていくか、先程の自治会のことも少し提案しましたがそういうことかも知れない。市民活動ってどんなことをしたらいいのかとか、市民活動ってなんだろうというのはどこの市民でも持つ疑問です。市民活動のためのプログラムの開発みたいなものが出来たらいいと思います。研修会的なものになるんですが、自治会や学校関係者・ＰＴＡであったり、NPO・行政もそうかもしれないですが、ファシリテーション研修を、ある物を企画して運営するためのノウハウとか会議の進め方とか意見の集約とか、その気にさせるファシリテーションを色々な場面で出来ると思いました。それと行政やＮＰＯで広報は当然ですが、自治会も広報をすることによって何をしているかという自覚も出てくるし、ＰＲしていくこともこれからは大事だと思う。広報のスキルとかプレゼン能力とかも必要だと思います。それと、次の時代を担う子供たちに、行政と一緒になにか出来ないか。子供の市民会議をするとか、NPO とか市民活動を小さい時から自然に覚えていけるよう、外国なんかではボランティア活動なんて当たり前のことで生活の中に組み込まれている。体験学習的なものが行政の絡みの部分で出来たらいいと思います。

（外園副座長）
１つ提案していいですか。国際文化都市芦屋ですよね。４６カ国、１７００人くらいの外国人がいらっしゃいます。その方たちが集まれる機会が作れたらいいと考えています。芦屋しか出来ない。もう１つは山村サロンというのがラポルテの中にありましたね。あそこに集まる方たちが魅力を感じられるような事をすれば成果は大きい。よっぽどの事を企画しないと魅力は感じられないと思いますが・・・。

（今川座長）
ＮＰＯと行政が協働企画するんですか。

（国枝委員）
私から１つ。職員の方、行政の方に現場を知ってもらう意味で、芦屋にはＮＰＯは３０前後。その中から１０団体くらいをピックアップして団体の活動を行政の方に見てもらうというツアーをしたり、活動内容を持ち寄っ

て報告会をしたり、各団体の交流の機会を作ってあげるような、神戸市では毎年視察・体験学習としてやっている。

（今川座長）
インターンシップとか研修のようなものですか。

（海士委員）
大阪府とうちはインターンでやっています、３日とか４日ですが。

（高嶋部長）
色々な団体が１つになったイベントをやるのが手っ取り早い方法かと思います。でも、へたしたらバラ撒き的なイベントになりかねませんけれど、ばら撒く必要はないわけで、連携といっても１つの事業をやるというプロセスが一番適しているのと違うかな。そこで培われたコミュニティと言うのは日常生活にも芦屋みたいな小さなところなので活用できるかな。

（福島主査）
他市の例で行くとＮＰＯ祭りですね。市民活動センターで、発表・交流・講演会とかを行いお互いの活動を見て、行政ともつながりができ、市民活動が活発になったと報告がありました。こういうイベントは企画の段階で皆さん話し合って発展し、行政にも知ってもらいながら丁寧にやっている。

（大橋課長）
社会福祉協議会では、ボランティアセンター加入グループのイベントを市民センターでやっています。
インターンシップの研修ですが、市内で人を受け入れるほどの事業をやっている団体があるのか。小規模作業所とかそういう動きをとっているところだとあるのですが、人をとってまでやるところは芦屋には・・。

（国枝委員）
法人格をとった３１団体に対して、そのようなイベントをしたいが、どのような活動をされているか、ヒアリングをして調査したらいい。神戸では東灘区では東灘区と灘区、両方とも３５万人くらいの人口であわせて７０万人くらいいる。その中でＮＰＯが１５くらい集まって、「東灘・灘合同際」というのがある。コープ神戸を借りて各団体が舞台の周りにプレゼンテーションして発表会をする。お互いの活動がわかり顔が見え知り合える。神戸市の市民参画課の助成金を頂いて市と一緒に開催している。芦屋ではまず３１団体の調査・ヒアリングから始めないといけないと思う。

（外園委員）
まず、会員として集まってくれる人を対象に事業を進める。

（福島主査）
自治会に県民交流広場の説明をするが、７～８０歳台の先輩が活動されている。コミスクや子供会で活動されている方々は色々な企画やプレゼンテーションはいくらでも可能だが地元の先輩に遠慮がおありになる。新しい世代が出てくる仕組み・とって変わるのではなく、別の分野として活動するとか仕組みの提供が出来ていない。大きなお家の塀からから出てこられない。中にはお金・ノウハウ・知恵があるのに、其処から出てきやすい仕組みづくりが今までされてなかった。

（今川座長）
今日はアドバイザー会議ということで、いい意見交換が出来ました。市民活動センターと行政が協働で意思決定をされるのですか。

（外園副座長）
私たちは、アドバイスだけで、決めるのは行政。ＮＰＯが立ち上がるまでは。

（高嶋部長）
推進計画も素案という形で市の事務局としてまとめないといけません。推進計画は市が決定する基本計画ですのでそういう手続きで進めていく段取りで考えております。

（福島主査）
次は１０月２９日（月）３時～５時北館２階第３会議室で予定しております。

（外園副座長）
アドバイザー会議というのは、担当者や課長が市長・副市長に言いにくいところもあるからアドバイザーから意見を言ってくださいということでしたね。いつから変わったんですか。

（福島主査）
　条例を作るまでは市長・副市長も出席していただいて直接協議をしてきました。今回最高規範となる条例は決定しましたので、１９年度は計画を作るのが目的です。色々な附属機関で計画作成の会議が開催されているが、どれにも市長・副市長出ておられない。

（高嶋部長）
　出席要請する以前に所管として市長・副市長に出席を依頼するかどうか判断があります。それを抜きで今話をしておりました。基本となる条例を作成するまでは市長･副市長にも充分認識もしていただき市民参画という大きな施策を進めていく必要がある。これからは実務的な話に入ってくる中で、他の公務もありますし、市の本部会議の場でということで、私と秘書課の課長と市長・副市長との協議の上、今年度からは市長・副市長はでる予定はないと整理をさせていただいたところです。

（外園副座長）
　市長・副市長公務多端ですので、これからは部長決裁でドンドンやれとということですね。ありがとうございました。

（高嶋部長）
　提言を頂く中で報告の必要があるものについては報告いたします。

（今川）
　では、これで、本日の第１回アドバイザー会議を終了します。

　散会